

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau National Diet Library

論題 Title	開会挨拶・趣旨説明
他言語論題 Title in other language	Opening and Aim of the Symposium
著者 / 所属 Author(s)	森田 倫子 (MORITA Noriko) / 国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査員、文教科学技術調査室主任
書名 Title of Book	日本の宇宙政策を考える—今後10年のために何をすべきか— —科学技術に関する調査プロジェクト報告書 (Considering Japan's Space Policy: What Should Be Done in the Next Ten Years?)
シリーズ Series	調査資料 2023-4 (Research Materials 2023-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2024-2-29
ページ Pages	—
ISBN	978-4-87582-922-5
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	—

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

科学技術に関する調査プロジェクト2023シンポジウム

日本の宇宙政策を考える — 今後10年のために何をすべきか —

【開会挨拶・趣旨説明】

国立国会図書館 調査及び立法考査局
文教科学技術調査室主任 森田 倫子

スライド 1

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館 調査及び立法考査局の業務

```
graph TD; A[自発的な調査成果の刊行物  
(年間約320記事)] -- 提供 --> B[国会議員]; B -- 回答 --> C[国会議員の依頼に基づく調査  
(年間約3万3千件)]; C -- 国政に反映 --> D[国民]; D -- 掲載 --> E[国立国会図書館ウェブサイト]; E -- 掲載 --> A;
```

国民

国政に反映

国会議員

回答

提供

掲載

国立国会図書館ウェブサイト

同局刊行物（近刊～2003年頃まで※）
<<https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/newpublication.html>>

（※これ以前は当館デジタルコレクション
<<https://www.dl.ndl.go.jp>>
の検索でご利用ください）

国会議員の依頼に基づく調査
(年間約3万3千件)

自発的な調査成果の刊行物
(年間約320記事)

2

スライド 2

科学技術に関する調査プロジェクト

- 科学技術に関わる重要な国政課題の中から毎年複数のテーマを選び、外部の専門家の方々と連携・協力して調査・分析
- 中長期的なテーマについては、有識者の方々に御報告・御討論いただくシンポジウム等を通じて課題を展望



3

スライド 3

宇宙に関するこれまでの報告書

2016報告書「宇宙政策の動向」（2017年3月）

総括 各国の宇宙政策と我が国の課題

第1部 宇宙に関する基本情報

第2部 日本及び諸外国の動向 1 日本 2 米国 3 欧州 4 中国 5 ロシア 6 インド

第3部 分野別概観 1 国際宇宙法 2 宇宙産業と宇宙技術 3 宇宙と安全保障

資料集

2022報告書「宇宙空間の利用をめぐる動向と課題」（2023年3月）

序論 第1章 宇宙空間利用の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）

民間の参入 第2章 我が国における宇宙輸送システムの現状と課題

第3章 衛星コンステレーションの可能性と課題

第4章 衛星リモートセンシングによる観測データの利活用

第5章 米国の研究開発型中小・スタートアップ企業支援
— 中小企業イノベーション研究プログラム —

宇宙の安全保障 第6章 宇宙空間と安全保障に係る組織機構の動向

脆弱性 第7章 スペースデブリに対処するための技術とルール—宇宙空間の持続可能な利用のために—

これらの報告書を踏まえつつ、本日のシンポジウムで、

日本の宇宙政策を考える—今後10年のために何をすべきか—

4

スライド 4

本日のパネリスト・ファシリテータ

【パネリスト】

- 橋本 靖明 氏 (防衛省防衛研究所政策研究部軍事戦略研究室主任研究官)
 小笠原 宏 氏 (東京理科大学創域理工学部機械航空宇宙工学科教授)
 佐伯 和人 氏 (立命館大学総合科学技術研究機構教授
 ・立命館大学宇宙地球探査研究センター (ESEC) センター長)
 竹内 悠 氏 (慶應義塾大学宇宙法研究所研究員・宇宙航空研究開発機構)
 小塚 莊一郎 氏 (学習院大学法学部教授)

【ファシリテータ】

- 渡邊 浩崇 氏 (名古屋大学大学院情報学研究科特任教授
 ・国立国会図書館客員調査員)

5

スライド 5

本日の進め方

【パネリスト報告】

- | | |
|-----------------|----------|
| (1) 宇宙安全保障 | 橋本 靖明 氏 |
| (2) 宇宙輸送システム | 小笠原 宏 氏 |
| (3) 有人宇宙計画と宇宙探査 | 佐伯 和人 氏 |
| (4) 宇宙の持続的利用 | 竹内 悠 氏 |
| (5) 宇宙ビジネス | 小塚 莊一郎 氏 |

-----休憩-----

【問題提起】 渡邊 浩崇 氏

【パネルディスカッション
 及び 質疑応答】 パネリスト／ファシリテータ (渡邊 浩崇 氏)

6

スライド 6

開会挨拶・趣旨説明

国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査員・
文教科学技術調査室主任 森田 倫子

本日はシンポジウムに多数御参加くださりありがとうございます。開催に先立ちまして、まず当館でのシンポジウムの枠組みから簡単に御説明します。

国立国会図書館は、国会議員の調査研究に資するため国会に置かれた組織です。調査及び立法考査局という部局では、国会議員からの依頼に基づく様々な調査を行っております（スライド2）。また、今後のニーズを予測しての自発的な調査についても、様々なテーマで実施し、その成果を刊行物の形にまとめております。

科学技術分野に関しては、重要な国政課題の中から毎年複数のテーマを選び、外部の専門家の方々と連携・協力して調査・分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を実施し、報告書を取りまとめております（スライド3）。うち中長期的なテーマについては、有識者の方々に御報告・御討論いただくシンポジウム等を通じて課題を展望し、その記録に解説を付して報告書としております。

これまでのプロジェクトで宇宙に関しては、2017年3月に『宇宙政策の動向』、2023年3月に『宇宙空間の利用をめぐる動向と課題』という報告書を作成しております（スライド4）。本日のシンポジウムは、こちらを踏まえつつ、「日本の宇宙政策を考える—今後10年のために何をすべきか—」を展望することを目的としております。

パネリストには、我が国を代表する研究者の方々をお招きすることができました（スライド5）。御報告をいただく順に御紹介します。橋本靖明先生（防衛省防衛研究所政策研究部軍事戦略研究室主任研究官）。橋本先生は国際法、安全保障、宇宙法が御専門で、宇宙関係では開発・利用と安全保障などに関して御研究されています。

続きまして、小笠原宏先生（東京理科大学創域理工学部機械航空宇宙工学科教授）。小笠原先生は、航空宇宙工学、高速空気力学が御専門で、大学での御研究に移られる前は企業でのロケット開発等に長年の経験をお持ちです。

続きまして、佐伯和人先生（立命館大学総合科学技術研究機構教授・立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC）センター長）。佐伯先生は惑星地質学、鉱物学、火山学が御専門で、月の資源探査関係の御研究等をなさっており、また一般の方にも分かりやすい形で人類の宇宙進出までを視野に入れ、宇宙探査を解説した御著書もお持ちです。

続きまして、竹内悠先生（慶應義塾大学宇宙法研究所研究員）。竹内先生は、宇宙航空研究開発機構にも御所属です。御専門は国際宇宙法で、宇宙の持続的な利用に向け国際的な宇宙交通管理などを御研究されています。

続きまして、小塚莊一郎先生（学習院大学法学部教授）。小塚先生は商法、宇宙法が御専門で、宇宙を開発利用するビジネスとそれに関連する法的な課題などについて御研究されています。

ファシリテータにつきましては、国際政治学、外交史、宇宙政策、宇宙法が御専門の渡邊浩崇先生（名古屋大学大学院情報学研究科特任教授）にお務めいただきます。渡邊先生には、今年度当館の客員調査員として御指導いただいております。

本日はパネリストの方々にそれぞれ15分程度の御報告をいただいてから、ファシリテータによる問題提起の後、討論に入る予定です（スライド6）。御登壇の先生方にはそれぞれ先ほど御紹介した御所属等がございますが、このシンポジウムでは特定の組織の立場からではなく、一人の専門家、研究者として自由に御議論いただきます。

限られた時間ではございますが、可能な限り幅広い視点から、忌憚（きたん）のない御意見をいただければ幸いです。以上をもちまして、開催趣旨の説明といたします。

（もりた のりこ）